

## I. 経営理念

1. 福祉サービスを必要とする知的障害者が、心身ともに健やかに日常生活を過ごせるように支援する。
2. 福祉サービスを必要とする知的障害者が、社会活動に参加する機会を与えられるように支援する。
3. 福祉サービスを必要とする知的障害者が、地域において必要な福祉サービスを提供されるように支援する。
4. 福祉サービスを必要とする知的障害者が、地域社会に適応できるように支援する。
5. 知的障害者のための教育・訓練・福祉サービスの向上を目指し、療育技術の研究と啓蒙活動を行う。
6. 職員は信義誠実・明朗堅実を信条とし、信頼に富む職場を築き、コロロメソッドを基本とした知識・技術を習得することを目指す。

## II. 基本理念

社会福祉法人コロロ学舎は、設立母体となるコロロ ET センターが開発した「コロロメソッド(発達を促すプログラム)」に基づいたプログラムを組み、それぞれの利用者が持っている可能性を伸ばすために、頭と身体をフルに使った活動を通じて、自分で考え、自分で自分の身体をコントロールする(自立する)力を培っている。

基本理念である

“誰一人として排除しない”

“ひとりみんなのために みんなはひとりのために”

この言葉を心に留め、利用者が地域の中に出て様々な人からも支援が受けられるよう、職員が一丸となって取り組んでいく。このため、瑞学園開設時の入所措置選考に際し、関係諸機関に、「問題行動のために施設または家庭での生活が本来あるべき姿にたち戻せない苦境におかれている度合いの大きい方から順にお引き受けしたい」と述べた。また緊急一時保護事業でも、他の施設が受け入れをためらうような方でも利用していただいている。

この理念を、絵空事ではなく具現化するには、関係者は並々ならぬ努力を強いられ、時には苦痛も伴うが、それなくして理念の実現はありえないことも事実である。そして同時にこの理念が最後には私達に「誰一人排除させない」すべり止めの壁になって立ちほだかってくれるのである。

## III. 重点項目

1. コロロメソッドの基本の再認識（集団活用、刺激と反応の分析力強化）
2. そうせい学苑 自立支援法「生活介護」に事業移行し、定員を90名に増加
3. ケアホーム 新規ユニット「スバル」の増設（定員9名）
4. 瑞学園 自立支援法移行準備

## IV. 理事会開催予定

- |     |                    |
|-----|--------------------|
| 5月  | 決算報告・事業報告、夏季賞与、ほか  |
| 10月 | 上期収支報告、補正予算、ほか     |
| 11月 | 年末賞与ほか             |
| 3月  | 補正予算、次年度予算・事業計画、ほか |

舎施設建設準備会発足

地取得確約

[Click Here to upgrade to  
Unlimited Pages and Expanded Features](#)

1998年(平成10年)	10月	社団法人「コロロ学舎」認可
1999年(平成11年)	10月	知的障害者入所更生施設「瑞学園」開設
2000年(平成12年)	6月	瑞学園 北海道旅行
	7月	瑞学園作業棟「邦栄館」竣工
	10月	第1回瑞まつり開催
2001年(平成13年)	6月	瑞学園コース別旅行(アメリカ、北海道、郡山)
	10月	第2回瑞まつり開催
2002年(平成14年)	6月	瑞学園サイパン旅行
	7月	生活寮「ベガ」開設
	10月	「スウィング」事業開始 第3回瑞まつり開催
2003年(平成15年)	4月	地域デイグループ「スウィング」補助開始
	6月	瑞学園オーストラリア(ケアンズ)旅行
	8月	重度生活寮「アルタイル」開設
	10月	第4回瑞まつり開催
2004年(平成16年)	6月	瑞学園沖縄旅行
	10月	グループホーム「シリウス」開設 第5回瑞まつり
	12月	知的障害者通所更生施設「そうせい学苑」開設
2005年(平成17年)	6月	瑞学園熊本旅行
	10月	第1回青桃祭(瑞学園・そうせい学苑合同祭)開催
2006年(平成18年)	6月	ショートステイ棟「千種館」開設
	10月	瑞学園コース別旅行(宮古島、長崎、房総)
	11月	第2回青桃祭開催
2007年(平成19年)	4月	自立支援法移行により、「ベガ」「アルタイル」「シリウス」を統合し3ユニットからなるケアホーム『アルタイル』となる。
	5月	第1回瑞学園・そうせい学苑合同運動会開催
	10月	第3回青桃祭開催 瑞学園コース別旅行(立山、伊豆、神戸)
2008年(平成20年)	4月	そうせい学苑 自立支援法移行 生活介護事業(定員90名) アルタイル4つ目のユニット「スバル」開設(定員9名)

		所在地・連絡先
瑞学園	知的障害者援護施設（入所更生） 障害福祉サービス事業（短期入所）	瑞穂町箱根ヶ崎武蔵野 940
そうせい学苑	障害福祉サービス事業（生活介護）	瑞穂町箱根ヶ崎武蔵野 938-4
千種館	障害福祉サービス事業（短期入所）	瑞穂町箱根ヶ崎武蔵野 938-5
アルタイル	障害福祉サービス事業（共同生活介護）	（アルタイル） 瑞穂町長岡長谷部 129-3 コーポK Y1 （ベガ） 瑞穂町長岡長谷部 129-3 コーポK Y2 （シリウス） 瑞穂町箱根ヶ崎 483-32 （スバル） 瑞穂町長岡長谷部 130 コーポK Y3
スウィング	東京都心身障害者（児）通所訓練等事業	瑞穂町長岡長谷部 223-1（連絡先はそうせい学苑）

## 第二章 管理運営体制

### I. 職員体制

職種	施設長 (管理者)	事務局長	事務員	サービス管理責任者	生活支援員	世話人	療育スタッフ	看護師	栄養士	調理員 (委託)	嘱託医
事業所											
瑞学園	1	1	1 (1)		25			1	1	7	1
そうせい学苑	1		1	2	19			1	1	3	1
ケアホーム	【1】			1	3	3 (2)					
スウィング	【1】						3				

【 】は他事業所との兼務、( )は非常勤職員

### II. 勤務体制

1. 事務員,看護師,栄養士・・・9:00～18:00
2. 瑞学園
  - (1) 早番・・・7:00～14:00
  - (2) 日勤早番・・・7:00～17:00
  - (3) 日勤遅番・・・8:30～18:30
  - (4) 遅番・・・13:00～22:00
  - (5) 宿直・・・16:30～翌9:00

#### 4. ケアホーム

#### 5. スウィング

### III. 研修（職員研修計画）・研究

#### 1. 平成20年度研修・研究計画の目標

コロロ学舎設立から10年目を迎え、職員の経験層も幅広くなった。しかしながら、個々の支援技術と経験年数が比例することはない。加えて「求められる職員像」には、高い支援技術にとどまらない多様な能力が要求される。

現状としては、指導層と被指導層との格差ならびに支援技術以外の専門性の向上が課題である。そこで、平成20年度は、「指導者層の拡大」を目標とする。

#### 2. 研修・研究計画策定における観点

研修・研究計画策定においては、以下の観点をもって行っていく。

##### ① 専門的知識・技術の向上

コロロメソッドを基盤とした支援技術の向上には、理論の深奥と実践が不可欠である。理論を深めるには、基礎的な用語の理解をはじめ、実践における支援の結果の照合がポイントになる。

##### ② 福祉・支援業務における知識・技術の向上

近年においては、自立支援法の下に利用者を取り巻く状況が多様に変化している。国や都からの指導もまた、変化に著しい。

そのような中で、最新の確実な情報を知識として習得することは、福祉施設に関わる職員としての責務である。ただし、あいまいな情報をあいまいなままに獲得することは避けたい。

##### ③ 指導者の育成

コロロメソッドの遂行には、職員の技術向上が欠かせないとともに、それを指導する側のレベルアップも不可欠である。OJT (On the Job Training) やSV(Supervise)の方法を検討し、「受ける側」「指導する側」の両面でのレベルアップを目指す。

##### ④ チームワーク力の向上

専門的な支援力の向上は、個人の技術向上に留まってしまう傾向にある。しかしながら、コロロメソッドが必要とする支援には、チームによる支援が欠かせない。そのため、チームワーク、主にコミュニケーションに視点を置いたチームワーク力の向上を目指す。

##### ⑤ 社会一般的知識の向上

福祉施設は営利的企業と異なり、外部との交渉や接点が少なく、人間関係が職場内に留まる傾向が強い。よって、一般的なマナーや常識に欠ける立ち居振る舞いが施設の常識となり得る恐れもある。

の立ち居振る舞いや基本的マナーの獲得は、支援技術の向上につながる常識やマナーを身につけた職員の育成を目指す。

3. 平成 20 年度研修計画

以下の計画は、社会情勢や職員の動向によって臨機応変に変動するものとする。

	①専門・技術の向上 ※講義研修に関しては、同テーマで月3回開催する。これにより、勤務によって参加できない職員が少なくなるように配慮する。	②福祉業務の向上
4月	基礎的療育技術に関する講義研修の開催。	救命救急（発作含む）
5月	※歩行、DR、学習、脳科学などに関わる講義（2年目以降が講師となることで、理論を深める）	日常業務について（日誌、連絡帳の書き方）
6月		予算・決算報告・経理研修
7月		緊急時対応、危機管理
8月		
9月	基礎的療育技術に関する講義研修の開催。	健康管理研修（服薬、栄養）
10月	※ポジショニング、アイコンタクト、連携など実践力を深める。	感染症予防対策
11月		個別支援計画作成のために
12月		
1月	レポート研修（課題未定）	
2月	レポート研修（課題未定）	
3月		

③指導者の育成の観点から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケース研究（2年目以降の職員が対象）の実践</li> <li>・ MT講座での講師（3年目以降）</li> <li>・ 外部からの依頼講師（4年目以降）</li> <li>・ 発達プログラムの執筆</li> <li>・ OJTの記録（係長以上）</li> </ul>
④チームワーク力の向上の観点から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一年目研修の開催</li> <li>・ 中堅研修の開催</li> <li>・ 役職者研修の開催</li> <li>・ 部署研修の開催</li> </ul>
⑤ 社会一般的知識の向上の観点から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マナー研修</li> <li>・ レポート研修</li> <li>・ 外部主催研修参加</li> </ul>

充実した会議開催」を目指す。

[Click Here to upgrade to Unlimited Pages and Expanded Features](#)

		開催	出席者
組（フォーム）会議	又抜における課題、調整点などを討議し、組としての方向性を決議する。	毎月	係に属する職員
リーダー会議	各リーダー層に属する者が支援（あるいはそのときの議題）を議論し、方向性を共有する。	毎月 ※必要に応じて臨時開催	役職者（主任、係長、課長）
医務・栄養会議	各業種の従業者が参加し、利用者の健康状態を確認、情報を共有化する。	毎月	支援員代表、看護師、栄養士
調整会議	各部署に属する者が、各々の報告、連絡事項等について情報を共有化する。	必要時	各部署代表
全体会議	各部署における全体会議。支援ならびにその他必要事項について、論議、検討、周知を行う。	必要時	部に属する職員
部課長（施設長）会議	人事等重要事項における決定会議。	必要時	部課長 施設長

## V. 第三者評価

第三者評価における結果は、現場における職員の職務に関する意識や動向が見える。これらは指導育成側の課題の発見につながり、よりよい施設運営には欠かせないものと考えている。また、日常業務における評価に関しても、新しい視点での指摘を受けることができ、よりよい変更につなげることができる。こういった理由により、本年度も、第三者評価を受ける。

時期：前年度同様に11月から12月

## VI. 苦情解決システムと関係諸機関との連携

苦情、相談における施設内での連絡は概ね処理体制ならびに手順に沿って行われている。これらにより相談が苦情、クレームに発展する機会は少なくなった。しかしながら、利用者、家族、関係諸機関との連携、信頼関係においては、今以上に迅速な対応が求められている。迅速な対応には「重大決議事項（人命に関わる、施設運営に関わるなど）」の察知力が求められる。しかしながら、このような事態は日常的に頻繁に起きるものではない。危機管理の一環としても緊急時における対応力が向上することは必要なことである。そこで平成20年度は、マニュアルに依らない事項が生じた場合、どのような対応を講じたかを分析し、苦情解決システムに活かしていきたいと考える。また、「ヒヤリハット」「みんなの声」等がその役を担うようにしていきたい。

### 1. 利用者、家族等からの苦情に対応する苦情解決責任者と窓口

所属	苦情解決責任者	苦情解決窓口
瑞学園	杉浦 章一	田淵 圭・池辺葉子
そうせい学苑	久保田 小枝子	菅原京二・木村妙子
ケアホーム	杉浦 章一	羽田雅幸・坂田清子
スウィング	久保田 小枝子	渡邊奈穂子

玄関

てりせい字宛

正面玄関寄りの掲示板下

② 施設内受付窓口の公開（利用者へ）

窓口の公開は、利用契約時に重要事項説明書において説明するほか、日常的にポスター等を利用して利用者にわかりやすいように公開する。基本的には、全職員が、相談や苦情の受付窓口となるが、代表が変更したときには、随時説明する。

③ 家庭連絡帳の活用（家族へ）

日常的な相談、苦情受付窓口としては、連絡帳がその役割を担っている。入所、通所によって書式は違うが、より家族の声を吸収できるように随時変更することがある。

④ 第三者による苦情受付窓口の公開

以下の窓口は、重要事項説明書ならびに学舎通信、ホームページにて公開している。

法人オンブズパーソン	堀江渥子（03-3386-0130） 小山凧子（0428-22-6070） 金子尚弘（042-585-7675）
瑞穂町役場福祉課（042-557-7620）	
東京都社会福祉協議会 福祉サービス運営適正化委員会事務局 （03-3268-1148）	

⑤ ホームページでのメールアドレス公開

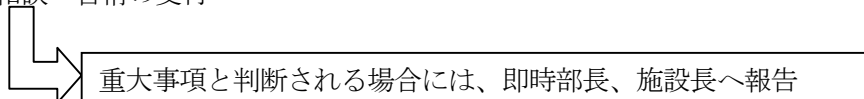
コロナ学舎ホームページにおいてメールアドレスを公開している。これは主に「苦情受付用」ではないが、相談や苦情の窓口としての役割を持っている。

⑥ 学舎通信での情報公開

苦情や相談の内容などを公開する場として学舎通信を利用する。公開においては、個人情報に十分に配慮する。

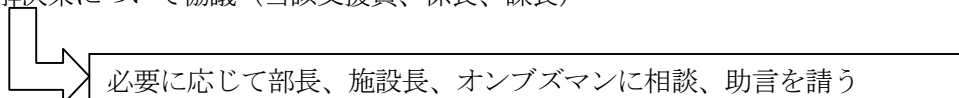
3. 円滑かつ迅速に苦情を解決するための処理体制・手順

① 相談・苦情の受付



② 窓口担当者へ集約、整理

③ 解決策について協議（当該支援員、係長、課長）



必要に応じてオンブズマン、理事長に報告

- ⑥ 経緯、結果を「みんなの声」に記録、周知
- ⑦ アフターケア（解決度合い、改善具合を窓口担当者が随時確認）

#### 4. 関係諸機関との連携

短期入所事業を実施しているコロロ学舎では、利用者の数は膨大である。こういった現状の中で、関係諸機関との連携は欠かすことができない。職員は、それぞれの服務に従い、関係諸機関の仕事の役割と範囲を知り、連携を図る。

特に、利用者を取り巻く「関係諸機関の仕事の役割と範囲」については職員として把握しておきたい事項の一つである。

### VII. 設備管理

「利用者が安全に生活するために」またそれを実施するために「支援しやすい職場づくり」には、修繕や営繕は必要である。故障や不備については、総務に情報が集約される。平成20年度もより充実した利用者の生活のために設備管理を実施していきたい。

また、設備にとどまらず園芸、美化なども随時進め、利用者が気持ちよくすごすことができる施設を目指したい。

(増設予定) 畑の水道設置：主に「利用者の衛生管理」を目的として、水道を設置する。

平成19年度9月より、スタンプレスによって起案、報告書類のデータ化を進めている。現状としては、書式、承認ルートなどより速やかに情報を公開、集約するには課題が残っている。平成20年度は、それら課題の明確化と修正を繰り返し、的確な情報ルートを作成したい。

### VIII. 職員の福利厚生

#### 1. 定期健康診断（年2回）

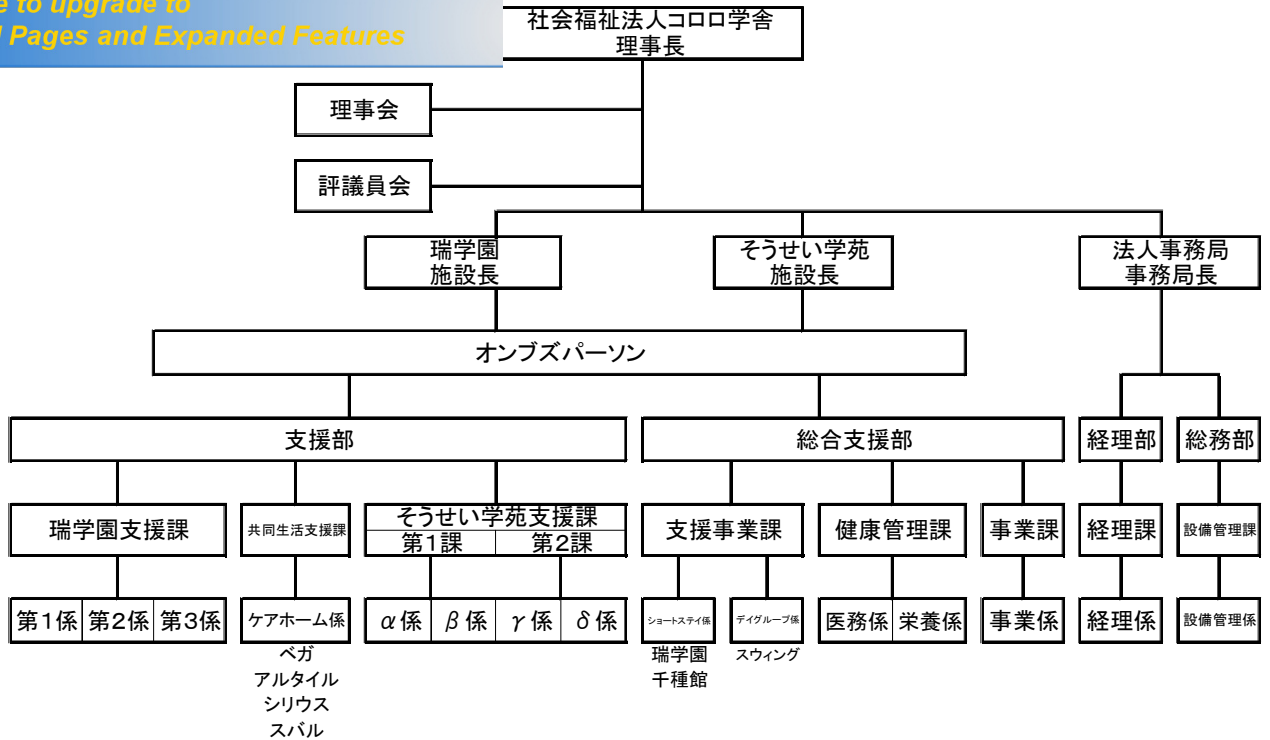
仕事の性質上、職員は心身ともに健康であることが必要である。各職員が健康に気を配ると共に定期的に健康診断を行い、疾病の予防に努める。

#### 2. 職員研修旅行

職員の見聞を広め、職員相互の親睦を深めることを目的とし、「職員旅行規定」のもとに年1回行う。今年度の行き先は、香港又はモンゴルから選び、5～10名のグループ別で2泊3日の日程で行う予定である。

#### 3. 資格取得支援

職務上必要と認められる公的資格取得について、「資格取得支援規定」のもとに対象職員について支援する。対象となる公的資格としては、看護師又は准看護師、大型自動車運転免許、栄養士、社会福祉士、介護福祉士等のほか、理事長が職務上必要と認めたものとする。



## X. 採用計画

平成20年度は、新規ケアホームの設立に伴い職員を増員したが、現状は不足している。

### 1. 平成21年度新卒者採用計画

平成20年度は、外部の業者を利用する新卒者採用を実施しなかった。パンフレットや大学への情報公開では、福祉や自閉症に興味のある学生を引き付けることに限界があることが現状である。

そこで平成21年度は、(株)毎日コミュニケーションズの「毎ナビ09」を利用し、大学新卒者の獲得を目指す。

採用に当たっては、事業部の計画のもと部長以下による人材発掘、初期選考を実施し、施設長ならびに理事長は最終審査を行い、次年度への課題を検討したい。

### 2. 中途採用計画

中途採用に関しては、「福祉人材センター」「ハローワーク」「コロロ学舎ホームページ」での募集を主とする。

ソッドの普及や浸透、理解」といった活動は現在も引き続

き行われはならない活動のひとつである。10年の活動の中で、「コロロ」「瑞学園」の活動は、広域に  
わたり「自閉症者支援の代名詞」となってきた。これは短期入所事業の利用者が幅広い区域に及んでい  
ること（平成19年度事業報告参照）、そうせい学苑の利用者が広域にわたるという事実からも推測が可能で  
ある。

しかしながら、「自閉症の専門」「強度行動障害への対応」といった解釈の中には「コロロメソッド」が浸  
透しているとは言い切ることができないのが現実である。つまり「コロロメソッドを受けたい」という思い  
よりも、一時回避的に利用する方が多い。これは短期入所事業の考え方としては、一般的であり、当たり前  
の姿である。しかし、その後の利用者の生活につなげ、よりよい地域での生活を目指す上で、関係者、家族  
や福祉機関の方が少しでも療育に関心を向けてもらうことが重要である。

#### ① 施設利用者の家族への啓蒙活動

学舎通信の発行、MT講座の開催、見学相談の随時受け入れ

#### ② 外部利用者への啓蒙活動

外部からの講演依頼への積極的受け入れ

講師派遣依頼の積極的受け入れ

MT講座の公開

### II. コロロ学舎通信の発行

#### ① コロロ学舎通信の目指すところ

コロロ学舎通信は、平成19年度より開始した。年6回の発行となるが、内容に療育的視点を盛り込み、  
啓蒙活動の一環としても利用している。

開かれた施設としての「情報の公開」と啓蒙活動としての「コロロメソッドの普及」そして、「家族との  
交流」としてコロロ学舎の姿を公開できる冊子になることを目指す。

#### ② 発行計画

4月 6月 8月 10月 12月 2月 計6回

### III. 学舎ホームページの活用

コロロ学舎のホームページは、以下の目的に沿って運営する。

#### ① コロロメソッドを公開する

#### ② 施設情報の公開

#### ③ 採用情報の公開

#### ④ 家族への情報公開（パスワードが必要）

#### ⑤ 相談の受け入れ

### IV. 外部相談事業（見学・相談）

見学、相談の受け入れ数は、コロロ学舎開設以来減少することがない。平成20年度も引き続き受け入れ  
を積極的に行っていく。

れに携わる職員の汎化を目指したい。また、わかりやすいパンフレットにコロロメソッドについて理解してもらえることを目指す。

Ⅴ．家族会・業力会・地域交流・ボランティア

① 家族会

家族会は、瑞学園利用者の家族が独自に運営している。これら運営には、施設職員は携わらないものの、行事などでは協力を受けている。施設を会場として利用してもらうなどの協力体制を引き続き整えておくことと、協力依頼などの連絡窓口の担当者などを明示し、連携をとるようにしたい。

② 業力会

瑞学園、そうせい学苑に関わる業者の方々が発達してくださり、運動会や青桃祭など、大行事の際には欠かさず協力していただいている。平成20年度も、行事において協力依頼をすることが見込まれる。連絡窓口の担当者を明示し、連携をとるようにしたい。

③ 地域との交流

栗原町内会ならびに瑞穂町の行事は、地域の一員として積極的に参加する方針である。

また、栗原町内会・特別養護老人ホームみずほ園・社会福祉法人コロロ学舎で「災害活動相互応援協定」を締結しており、緊急時の協力や定期的な訓練等も計画する。

④ ボランティア

日常的なボランティアの受け入れは、希望があれば受け入れる方針である。また、学生などのボランティアに関しては夏季に受け入れを行いたい。

⑤ 実習生の受け入れ

特別支援学校の実習生の受け入れは、学校の実習期間において受け入れる。学校によっては、実習期間が重複することがあるので、多人数の受け入れにならないように担当者が調整するようにしたい。

教員免許取得のための現場実習生の受け入れは、その希望の期間において受け入れを実施する。

東京都社会福祉協議会主催の施設実習の受け入れも積極的に行う予定である。